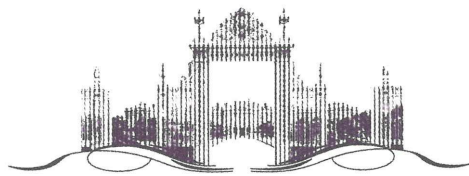




Rotary International
SERVICE Above Self
超我の奉仕

2005～2006年度

国際ロータリーテーマ:カール・ヴィルヘルム・ステンハマー会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

東京赤坂ロータリークラブ

No.905 / 2006.4.21

例会 / 毎週金曜日12:30

例会場 / 東京全日空ホテル Tel 03-3505-1111

事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

http://www.k5.dion.ne.jp/~akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「全員参加で実行しよう」

2005～2006年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ / 小杉修造会長

●本日の例会 / 2006年4月21日第927回例会

第5回クラブ協議会

「出席とプログラム」

(例会後 13:10～14:30)

— ●先週報告 / 2006年4月14日第926回例会 —

卓話

「世界の水事情と日本の役割」

国連本部テクニカルアドバイザー 吉村 和就氏

(紹介者 村山公士君)



会長報告: 新会員の藤井敬一
さんのご紹介

幹事報告: 先日お知らせいた
しましたロース
ター資料の締切
日は、4月21
(金)となっております。21日までに、加筆訂
正のうえ事務局まで、ご提出ください。



雑誌委員会: (四分一勝委員長) ロータリーの友4月号のご
案内

国際奉仕委員会:

(早川清隆委員長) 100ドル寄付を再開いた
しました。本年度は、11月に1回目を行い27名
の方がご寄付くださいました。まだご寄付を
されていない方は、よろしく願いいたしま
す。4月のレートは1ドル118円となっております。

出席委員会: (山川政樹委員) 3月の出席率は、76.56%でした。

プログラム委員会:

(荒木昭文委員長) 第5回クラブ協議会のテー
マ「出席とプログラム」です。このテーマの
主旨は、欠席会員や休眠会員への声かけやフォ
ローで出席を促すこと。魅力あるプログラム
を提供することで、出席への働きにつながり、
退会防止につながるようにすることです。

慶事披露:

誕生日祝 /
入沢頼二君(4月9日)、長谷川尊一君(4月10日)
竹本孝三郎君(4月11日)

出席報告: 55名 / 出席 35名・欠席 20名(出席規定免除
者5名) ゲスト1名 ビジター4名

新会員のご紹介 (2006年4月7日ご入会)

仁 木 洋 子 さん

生年月日 9月6日

職業分類 商業文化施設の企画運営

事業所名 株式会社 イルミナティ

役 職 代表取締役

所 在 地 〒104-0061 中央区銀座3丁目13-2-3F

TEL: 3547-3412 FAX 3547-3410

Eメール yokoluna@illuminat.co.jp

推 薦 者 鈴木 康一君、石井 謙次君

新会員のご紹介 (2006年4月14日ご入会)

藤 井 敬 一 さん

生年月日 1956年10月29日

職業分類 情報処理サービス

事業所名 株式会社 オムニサイエンス

役 職 代表取締役

所 在 地 〒103-0004 中央区東日本橋1-2-6

ユニモビル7F

TEL: 3864-0710 FAX: 3864-0950

Eメール k-fujii@omni-s.co.jp

住 所 〒272-0811 千葉県市川市北方町4-1743-5

TEL: 047-338-2280

推 薦 者 大日方 真、石井 謙次



4月14日 / 10件22,000円 / 本年度累計1,045,000円
多額のご寄付をありがとうございました。(敬称略)

村山公士 / 吉村さん、本日の卓話楽しみにしております。よろしく願いいたします。入沢頼二 / 誕生日祝あ
りがとうございます。土屋東一 / 先週皆出席のお祝いを
いただきありがとうございました。追伸まで。荒木昭文
 / 尾上さん、ユーモア会よかったですね。ご苦労さまで
した。鈴木康一 / 来週「出席したくなるような例会にす
るには、どうしたらいいか」という協議会があるそうで
すが、福島幹事から一言喋れとの指示。本年度最大の皮
肉だと思います。長谷川尊一 / ユーモア会ありがとうご
ざいました。これからどうぞよろしくお願いいたしま
す。武下朗 / 岩上さんニコニコごくろう様です。石井謙
次 / 岩上さんニコニコごくろう様! 竹本孝三郎 / 誕生
祝いありがとうございました。57才のこの1年を楽し
みたく思います。岩上義昭 / 今日は、不肖私の妻の誕生
日です。早く帰ってお祝いします。

私の内面の留学準備

派遣交換学生 麻布高校2年 鈴木 孟

東京赤坂ロータリークラブの皆様、日頃よりお世話になっております。緊張しながらも私服という格好で東京新南ロータリークラブの推薦面接を受けた日から、早いもので既に10ヶ月が過ぎようとしています。お蔭様で派遣国も希望通りフィンランドに決定し、1390地区に派遣して頂く事はほぼ確実だと伺いました。この10ヶ月の間、例会に出席する度に皆様から励ましのお言葉を頂きました。私の留学準備という活動は、私の様々な師や友人、支えてくださる人々、それに家族からの言葉と協力という精神的支柱が土台としてあるからこそ続いていると思います。10ヶ月間の皆様からのお言葉の一つ一つは確実に、その様な精神的支柱を形成する一端を担って来て下さった様に思います。

先日、青少年交換委員会の方々、ROTEX（過去に海外に派遣された学生）の方々、他の派遣候補生、来日生と共に広島へ研修旅行に行き参りました。「自分の留学の意義を考える」というテーマのもと、原爆資料館を見学したりして平和についても考える研修でした。このキャンプで私達派遣候補生は、「留学に向けた焦りと積極性がない」との激励を頂きました。

これまで私達派遣候補生は、スピーチを中心とした多数の研修を続けて参りました。日本の紹介のスピーチについては、今までに2回ありました。私はうっかり、スピーチの質の向上ばかりにとらわれて、そこに含まれたもう一つの意味である「積極的に自分をアピールする練習」という面を見逃していた様に思います。これは、とにかく試験を受けた時分から、成り行きに流され続けてきたという事にも起因している気が致します。つまり、何のために自分は留学するのか、何故そこまで留学を望んだのかといった留学の意義を、真剣に考えたことはありませんでした。私はこの研修でいろいろな事を委員会の方々やROTEXの方々に指摘され頭の中が混乱した事により、この様に流されてきた自分を振り返り、留学について少し真剣に考えてみる事も必要なのだと感じました。指摘された積極性についても含め、そうして考えていく中で、厳しい留学に耐えられる様な自分の考えによる精神的支柱を築いていきたいと思っています。冒頭で述べた様な支えてくださる方々による精神的支柱に加え、自分の中で考えた精神的支柱があればこそ、強い意思をもって留学に臨む事ができるのですから。そしてキャンプから数週間たった現時点で、以下の様に自分の留学の意義を捉えています。

留学した時、私は孤独になります。もちろん、友人を作る事で1人の人間としての孤独からは逃れる事ができますが、周りに日本人がいないのですから、日本人としての自分は孤独であり続けます。これは、ディスカッションの場で意見の大きな違いに直面する事などで、実感するのではないのでしょうか。行ってみたいと分かりませんが、同じ国の人間が周りにいないという事は、特に海外経験の無い私にとっては、辛くなる事があるかもしれません。

しかし、外国で日本人として孤独であるという事は、自分の周りに日本という枠がないため、自分と外国の人間との最初の壁を解きさえすれば、直接に海外との交流が可能になるという事でもあるのです。この様な国家の枠を超えた孤独は、いわば「恵まれた孤独」でもあるのだと思います。

孤独でもそれを乗り越えて文化交流をするという事は、考え直せば非常に当たり前のロータリーの留学生の使命だと思われれます。しかし、最初の海外経験をやる私にとっては、そう容易な事ではないと覚悟しておく必要があります。そう

覚悟する時に、海外での孤独は実は恵まれたものなのだと念頭においておく事で、孤独から交流に意識を変えやすくなるのではないのでしょうか。今回の留学は、この様に意識を変化させる最初の訓練であり、これが今回の「留学の意義」でしょう。そして今回の留学後、海外での経験を徐々に増やしていく事で、日本人としての孤独など気にならない様な国際社会に通用する人間になっていきたいと思っています。ただし、その様な人間になった時でも、かつて意識を変えるために必要であった「恵まれた孤独」という考え方を、忘れてはなりません。この考え方は、単に孤独を乗り越えるための手段であるだけでなく、支えてくださる方への感謝の気持ちの表れでもあるのですから。

現在、私の内面における留学準備の進行状況は以上の様なものであります。支援して頂いているにもかかわらず、例会への出席回数が少なく、申し訳なく思っております。この寄稿が、それに対するせめてもの代償となることを願う次第であります。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

友もあ会報告

4月11日(火)、友もあ会が六本木桃太郎を借り切って開催された。今回は尾上親睦副委員長が幹事役となり3年5ヶ月ぶりに開かれたものである。当日はあいにくの雨だったが、それでも新入会員4名を含む19名の会員が集まった。会は石井会員の司会で始まり、まず小杉会長が挨拶に立ち、会員歴に関係のないアットホームな親睦の場として続けて欲しいとのメッセージがあった。次いで、吉岡会員から友もあ会の謂れや以前の会の様子についての逸話―当時はかなり難しい話が交わされていたようだ―が披露された後、庄司会員が乾杯の音頭をとった。そして、新入会の伊藤会員から順に、長谷川会員、飯島会員、藤井会員と自己紹介が行われ、また既存会員がそれぞれ自己紹介を返してエールを交換した。各テーブルでは新入会員を囲んで話に花が咲いたが、途中3年半もブランクがあったため、既存会員の中にも初めて友もあ会に参加したメンバーもあり、以前の会についての話で盛り上がり続けた。会の中盤には、小杉会長の発案でカラオケ大会が始まり、それぞれ自慢の美声が披露された。途中、竹本会員と長谷川会員のバースデーソングや店のマスターのエレキギター演奏(ベンチャーズ!!)があったりして、みなリラックスして大いに楽しんだが、8時過ぎ、今後も継続して(このようなスタイルで)友もあ会を開催することを確認して中締めとなった。

(松永記)

(参加者:伊藤、長谷川、飯島、藤井、小杉、荒木、吉岡、庄司、早川、村山、尾関、尾上、田村(昭)、岩上、石井、西澤(民)、竹本、椎名、松永) 次回幹事:田村(昭)



●次週予告／2006年4月28日第928回例会

◎卓話予定／イニシエーションスピーチ

当クラブ会員 伊藤文武君